



## イエスの生き方になろう

エマニュエル・ポポン神父

子どもたちは素晴らしいものです。部屋の机に向かっている時に幼稚園のグラウンドから生き生きとした子どもの声がよく聞こえます。ほとんどが楽しんでいる声で、「うるさい」と一切思ったことはありません。ただ、たまに泣き声も聞こえます。「どうしたのかな」と軽く心配します。そういう時に、たいてい、あることにすぐ安心させられます。それは先生たちの気づかいとそれに勝るとも劣らない子どもたちお互いの気づかいです。その泣いている仲間に対しての気づかりを見る度に感心します。

そして反省しながら、思います。「どうして大人になったらその気づかりが消えるほど薄くなってしまふの？」不思議なことです。子どもから大人になる間、いつか、他人を仲間として見えなくなります。それはある時に人に騙されて、いやな経験をしてしまった結果人を信用できなくなり、少しずつ無関心になってしまふからではありませんか？しかし、自分を振り返ってみたら、それは残念だと思います。

「わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群に羊を送り込むようなものだ」(マタイ10章16節)とイエスは従っている人に言われます。そのことばを私はとても大事にしています。人を踏みつぶす無関心、自己中心、暴力、傲慢に対抗するために。

羊は狼と戦うことはできません、狼ではないから。他の力を持ちます。穏やかに羊らしく、羊のまま最後まで立つことです。同じようにイエスの弟子はこの世の力を用いて戦いません。弟子の力は戦いや支配を求めません。弟子は神のみ心を汲んで心の平和を持ってこの世を歩みます。すべての命に関心を持ちます。どんな人とでも仲間になれる。それはイエスの生き方です。この社会は狼に変身しない羊を必要としています。

みなさん、イエスが示した優しい力を自分の力にして、この世の旅を進みましょう。

### 主日のミサで故人のためのミサを依頼なさりたい方へ

主日のミサは教会共同体皆のために捧げられるものなので、本来ミサの中で司式の神父様は個人の名前をおっしゃることはありません。先唱者が共同祈願の最後のお祈りに、お名前を入れて皆で祈ります。

依頼の方法は、当日ではなく前もって依頼用の封筒に依頼者のお名前など必要事項を記入していただき典礼チームに渡していただきます。典礼チームからその日の神父様と先唱者に連絡します。

# 死者の埋葬および火葬の場合の遺灰の保管に関する指針について

墓地委員会

表題の指針は、教皇庁・教理省より 2016 年 10 月公布されましたが、これを受けて、2017 年 7 月、日本カトリック司教協議会で日本の教会での適応が定められました。

このほど教区よりその内容の通知がありましたので、要約してお知らせします。

なお、指針では「遺灰」という表現が使われていますが、これは欧米の火葬のやり方（遺体は文字どおり「灰」にされる）によるもので、日本での「遺骨」にあたります。

## I、教皇庁・教理省の新しい指針（2016 年 10 月 25 日公布）

教皇庁・教理省では 1963 年 7 月の指針で「信者の遺体を埋葬(土葬)」する慣習を忠実に守るように」と規定しています。一方火葬については、キリスト教教義を否定する立場から、あるいはカトリックの信仰と教会に対する憎しみの意図のない限り、「それ自体キリスト教に反するものではない」と付け加えられました。

## II、指針の日本の教会への適応

### 1、ご遺骨の自宅保管について

- (1) ほとんどの人が、ご遺骨を墓に「埋蔵」、ないし納骨堂に「収蔵」するまで一時的に自宅に保管していますが、これにはまったく問題がありません。
- (2) ご遺骨を自宅に半永久的に保管することに関して言えば、日本独自の文化と結びついた重大かつ例外的な状況を考慮して、司教協議会としてそれを許可します。

### 2、分骨（ないし遺灰を分けること）について

- (1) ご遺骨を「家族成員の異なる世帯の間で分け合うこと」も日本においては普通に行われています。そして、ほとんどの人が遅かれ早かれ墓に「埋蔵」ないし納骨堂に「収蔵」しています。
- (2) 一部の人々は分けられた骨をさまざまな理由で自宅に半永久的に保管しています。

日本の司教協議会としては、上記(1)と(2)いずれの場合にも許可を与えることにします。

なお、「散骨」と「ご遺骨の保管方法」に関しては、同指針 7 項に述べられている通りです。

- (1) 「汎神論者、自然主義者、虚無主義の類のあらゆる誤解を避けるために、遺灰を空中、地上、水中、もしくはその他の方法で撒くことは許されません。」
- (2) 「同じように、思い出の遺品、装身具、その他の物の中に保管することは許されません。」

以上

# ユスト高山右近 列福記念講演会

# キリシタン大名 高山右近の生涯に学ぶ 信仰者の生き方

2017年  
9月16日(土)  
14:00~16:00

講師

川村 信三 神父

上智大学文学部教授、イエズス会

会場

カトリック六甲教会／主聖堂

神戸市灘区赤松町 3-1-21

入場無料、事前申込みも不要です

ご来場には  
公共交通機関をご利用ください。



お問い合わせは六甲教会事務所まで ☎ 078-851-2846